

故事成語ってなんだろっ？

まずは、次のお話を読んでみましょう。

ある日、川辺で蚌（貝のなかま）が口を開けて日向ぼっこをしていました。そこへシギ（鳥のなかま）がやってきて、蚌の口をつつきました。蚌は怒ってシギのくちばしをはさんでしまいました。お互いにはなさずけんかをしていると、たまたま通りがかった漁師が両方ともつかまえました。漁師はなんの苦勞もせず、貝と鳥の両方を手に入れてしまいました。

このお話は、「戦国策」という中国の古い書物に出ていたお話です。このお話をもとに次のような意味を持った言葉が生まれました。

両者が争っているときに第三者に利益を横取りされること。

Q1 さて、この言葉は次のうちのどれかな？

- ① 温故知新
- ② 烏合の衆
- ③ 漁夫の利
- ④ 切磋琢磨

わかりましたか？さて、このように有名なお話や人が行ったことから生まれた言葉や、故事成語といえます。特に中国の古いお話から生まれた言葉がほとんどです。たとえば、まちがいが多いという意味の「杜撰（ずさん）」という言葉は、中国の杜黙（ともく）という人の詩がまちがいが多く、きちんとつくられていかなかったというお話から生まれた故事成語です。

Q2 こんな場面では、どんな言葉を使うでしょうか？吹き出しの中の○に当てはまる言葉を書きなさい。



1の場面



2の場面

- ① 推敲
- ② 蛍雪
- ③ 逆鱗
- ④ 完璧
- ⑤ 矛盾

(正解)

Q1 答え③

※他の言葉もすべて故事成語です。どんな意味で、どんなお話を調べてみましょう。

① 温故知新 (おんこちしん)

② 烏合の衆 (うごうのしゅう)

④ 切磋琢磨 (せつさたくま)

Q2

1の場面 答え③

「逆鱗 (げきりん)」とは、龍のあごの下に一枚あるといわれているさかさまに生えた鱗 (うろこ) のことです。普段は、慣れれば人を乗せることもできる龍ですが、その逆鱗を触るとものすごく怒るそうです。このような話から、「逆鱗にふれる」とは、目上のひとをひどく怒らせてしまうという意味の言葉になりました。

2の場面 答え②

中国の晋の時代、車胤 (しゃいん) という若者は家が貧しく、明かりとなる油が買えませんでした。どうしても勉強したかった車胤は、夏の夜は蛍を集めて、その光で勉強しました。同じころ、孫康 (そんこう) という若者もやはり家が貧しく、油が買えなかつたので、冬には雪明かりで勉強しました。その苦労が実つて、二人は位の高い役人となって活躍したそうです。卒業式などで、よく歌われる「蛍の光」はこの故事を元につくられました。こうして、苦労して学問にはげみ、成果をあげることが表す言葉になりました。

※他にも多くの故事成語があります。たくさん調べてみましょう。